7/14告示、7/31投開票日で行われた東京都知事選挙において、政党からの支援がなかった小池百合子さんが初当選しました！初の女性都知事が地元から誕生したことになります。

〈選挙結果〉
（得票数上位3名・括弧内数字は得票率）
東京都全体

1．小池百合子　2,912,628票（44.5%）
2．増田寛也　1,793,453票（27.4%）
3．鳥越俊太郎　1,346,103票（20.6%）

豊島区（小池さんの豊島区での得票率は全選挙区で最も高かったです）

1．小池百合子　71,194票（53.0%）
2．増田寛也　28,116票（20.9%）
3．鳥越俊太郎　24,819票（18.5%）

政策に、町会・消防団への支援や商店街の維持発展などの細かい点まで盛り込まれているのは、これまでの地域活動の賜物だと思います。

小池百合子都知事には、「都民ファースト」での都政大改革の実行に期待します！

若狭勝総支部長、小池百合子最高顧問を選出

都知事選後に臨時で開かれた自民党豊島総支部総会に代わる総務会において、若狭勝総支部長（写真前段左）が全会一致で選出されました。

前支部長の小池百合子都知事は最高顧問に就任。

写真後段は小池百合子陣営で戦った5名の区議。
左から私、星京子区議、里中郁男区議、
本橋弘隆区議、河原弘明区議。

【小池百合子さんを応援した理由】

所属政党からの処分の可能性がありましたが、その上で私が今回の選挙で小池百合子さんを応援した理由は大きく3つあります。

1．これまでの人間関係、個人的にお世話になってきたこと

区議会議員へ立候補する前は、仕事の傍ら自民党豊島総支部の青年部員としてボランティアでの運転手など小池さんのお手伝いをしていました。初出馬の時にも小池さんの応援を受けて当選していますし、その後の地元活動や選挙などでも連携して活動をしてきました。

お世話になった方へ報いる、というある意味自然な動機が1つです。

2．能力や人格などが都知事にふさわしい候補であること

次に東京都知事を担える能力があるか、人格が備わっているかどうか、ということです。

１だけで決めてしまっては単に個人の思いだけですので正しい判断にはなりませんが、この観点からも小池さんは申し分ない人物です。

着想などの観点ではクールビズを日本で定着させた柔軟な発想力や実現力、着眼大局着手小局をしっかりと理解されており、**個人の能力**ではアラビア語を含む語学力と海外への独自の人脈、高い答弁力、頭の回転の速さなども持ち合わせておられます。

人格面のよさを見るのに分かりやすいのが、スタッフから慕われていることです。

私が選挙戦中に感動したことの一つに、小池事務所の元秘書が今回の選挙戦で全国からわざわざ駆けつけてくれたことがあります。遠くは鹿児島や関西から自腹で小池さんのお手伝いに来ていました。元秘書団がボランティアでわざわざ集まったというのは、スタッフに慕われていることを示す何よりの証拠ではないでしょうか。

3．地元の後押しがあったこと

そして何より地元の後押しがあったからこそ、後顧の憂いなく外回りにまい進できました。

私自身の党籍が無くなるかもしれないという中で後援会幹部へ相談したところ、全員一致で小池さんを応援しようという後押しをもらいました。また、選挙前に通常の地域回りをした時にも、地元から都知事を出したいという地域からのエールを本当にたくさん頂戴いたしました。

もし地元がぐらついていたら、小池さんの応援に注力できなかったかもしれません。

大塚駅北口での街頭演説会（写真）では、私が司会を務めましたが、地域の支援者や商店会長・町会長など各種団体の皆様など沢山の方々にお集まり頂き、感動で胸が一杯になりました。

【区内外の議員関係などの協力体制】

当初から一貫して応援してくださった若狭勝衆議院議員、高野之夫豊島区長。

自民党の総務会長や党紀委員長など要職を歴任してこられた笹川堯元国務大臣、小池さんの環境大臣時代の実績を知るアルピニストの野口健さんなどは、中盤から終盤に力強いご支援を下さいました。

自民党の区議では豊島区の5名の他、練馬区の村松一希区議、尾島紘平区議と共に陣営で戦いました。

区外や他県の龍馬プロジェクトなどの議員仲間も、それぞれの立場で応援をしてくださり大変心強かったです。自治体を超えた横のネットワークを普段から構築しておくことの重要性を改めて感じました。